

2701

東西對峙

昭和十六年二月七日



金體主義

南洋

日

滿

米

英



民主主義

南洋

「民主主義國ヨリ
徹底的に援助するのだ、
まだ分らないのか、」

ル・ダ・グ・ルト



2702

偶感

昭和十六年一月十日

七十五歲

忠太



乃公由來蒲柳之資
前門惡腔後門醜痔
況亦六腑依舊不治
只有五臟健在肚裡
莫漫勞心何必用醫
餘命幾何唯天是知

(口顏到底)



2703

世界四分案

昭和十六年一月十八日



 米國勢力圏
 西歐勢力圏
 ソ聯勢力圏
 東亞勢力圏

1941-1943に於ける各艦種別隻数比較

2704

		1941	1942	1943
戦艦	日独伊	20	22	28
	米	15	17	18
航空母艦	日独伊	8	8	8
	米	6	6	7
巡洋艦	日独伊	75	81	101
	米	37	37	45
駆逐艦	日独伊	271	292	325
	米	159	174	219
潜水艦	日独伊	284	400	500
	米	105	108	133
総計	日独伊	658	803	962
	米	322	342	422

1941現在噸数比較

米	1.250.000
獨+伊	850.000
日+獨+伊	1.835.000
日+獨+伊+佛	2.145.000

日獨伊對米の海軍勢力比較
昭和十六年一月二十日





2705

日米開戦也

昭和十六年一月二十一日



2706

佛印對泰の紛争・日本調停に東出す

昭和十六年一月二十六日



は一九四四年
が駐屯する本
リーと交換に、泰より
強奪せる地域、面積は
六二五〇平方新(我が
臺灣の二倍に近し)

2707

悲壯なる首相の心事

昭和十六年一月二十七日

首相

「事變以来事志と違ひ、今日の危機に到りたる全責は不肖文磨に在り。天皇陛下日夜の御軫念を拜し奉れ、心裂け肝碎るも是は足らず、文磨只だ最後の御奉公に邁進する處あるのみ。」



ルース・ヴァルト

「事變以来事志の如く、今日の成績を見るに到りたるは一に予の努力にあらず。二億の国民の協力を、見れば歡喜雀躍もあは足らず、予は只だ既定の目的の貫徹に向つて邁進する處あるのみ。」



2708

狂米の國防第一線

昭和十六年二月三十日



ルーズヴェルト
この赤線が我が国
防の第一線だ。
世界の弱國ども、
よく心得ろ。



2709

一舉手一投足

昭和十六年二月六日



甲 一舉手して
百萬の兵
一投足して
方千里
の領土



乙 一舉手して
金一億円也
一投足して
金十億
也



丙 一舉手して
金十兆也
一投足して
金二十兆也



2710

翼賛會いぢめらる。

昭和十六年二月九日



甲議員

「いつめが、憲法違反だ。」

乙議員

翼賛會

でかくて

懲算金

だふ。

丙議員

「胡魔化そうとても、駄目だぞ。」

丁議員

「豫算ふんかウント減らしてやれ。」



翼賛會

「まあ、待つてくれ、話せば分る。」

2711

紀元節と醜態

昭和十六年二月十一日



丸の内某映画劇場



某劇場収容定員三千

殺倒せる観客無慮十萬

百、傷者約百人
出動警官百餘人

即ち知る新體制は

信に頼るゝあることを

2712

野村大使クルズナルト

昭和十六年二月十四日



短頸燕喙の野村大使

「ヤ、御機嫌よう。」

太平洋に波風

を立てたく

ないね。

君の心機一

轉でどうも

もふろのたが。

長頸鳥喙の

クルズナルト

「ヤ、御苦勞様。」

それは僕の方から

君も言ふことだ。



2713

誰か鵜鴯の雌雄を知らん

昭和十六年二月二十四日



2714

泰佛印内満和解

昭和十六年三月十日



文

「勿論日本の
言ふ通りに
するも

日本

俺に骨を
折らせた
代り、
俺に
手向
ふ奴等
は加勢
しあいこと
を約束
しろ

仙

「日本のまふ
通りはまる
より外は仕方
がふい

英

米



2715

松岡外相獨伊訪問

昭和十六年三月十二日



2716

日本南進におびえる米英

昭和十六年三月十四日

愚太



米英
この南に
延びて来る
枝を伐らぬばふらぬ

2717

外八号

三千億弗

米・援英に熱狂す 差当り七十億弗を支給

昭和十六年三月十七日



米

「金も物資もいくらでも
あるんだ。滅亡に瀕する
英を助けてやらなければ
フチが危なくふる。」

2718

亡命者の巣窟米國

昭和十六年三月十九日



既往八年間歐洲諸国の亡命者、二国の元首、政治家、科学者、文豪等より一丈ふしの放浪者、約十萬人以上、就中ユダヤ人が六萬五千人以上。



2719

米の通帳制(開闢以来の珍事)

昭和十六年三月二十日



「あか不思議
神代あがらの
葦原の
瑞穂の国に
米足らぬ
とは



「思ひきや
さしゆ幸はか
言霊の
やまと言葉の
消え果てんとは



2720

翼賛會改組

昭和十六年三月二十七日



「今度は
うまく造つ
てやる



「どうし
こわさちやつた



	隻數	総トン數	全喪失と トン數の百分比	2721
英 国	322	1458021	45.8	大戦以來各國喪失船舶トシ數 昭和十六年三月二十八日 (昨年末まで)
獨 国	85	483344	15.2	
諾 威	82	204105	6.4	
和 国	46	180754	5.7	
希 国	43	179943	5.7	
佛 国	33	172410	5.4	
瑞 典	64	138126	4.3	
伊 国	16	89137	2.8	
丁 林	40	76199	2.4	
白耳義	11	57810	1.8	
芬 蘭	20	45670	1.4	
合 計	791	3183392	100	

2722

逝ける人

自一月一日
至三月三十一日

昭和十六年三月三十一日



男子	大角岑生	大角保立	飯訪忠元	山川章太郎	武谷仁作	金太	杉本東造	田崎武八郎	有坂銀藏	鈴木康生	植村澄三郎	下坂藤太郎	鷺尾順敬	藤田嗣章	伊知地	野口操太郎	宮脇梅吉	アミーンジョン	アリベルグソン	和田貞治郎	阪谷良之進	大島宇吉	鍋島榮子	望月圭介
	六五	七三	五八	六六	七六	七四	五八	七四	八八	七四	七四	七四	七四	七四	七四	五九	三三	八一	六四	五九	八九	八七	七五	

男	河村金五郎	伊藤乙次郎	黒金素義	中原市五郎	平田柳太郎	伊藤富太郎	榊山資紀	坂本俊徳	東	田中榮八郎	堀内康一	山本瑞雲	森	木村清三郎	丹羽圭介	田中国重	平塚定二郎	徳川達孝	蘆野敬三郎	眞島健三郎	木子幸三郎	諸井恒平	井上	和田国次郎
	七三	七六	七五	七五	八一	七七	七四	八四	七八	七九	七八	七五	五八	七三	八六	六八	八四	七七	六九	六八	八〇	六四	七六	

2724

1

英

に欺かれた

希臘

昭和十六年四月九日



「エゴ
大丈夫
かへ
?」



英
「大丈夫だ、
俺が請合った」



2

「エゴ
助けて
くれ...」



英
「アア
大変だ」







2726

沽客の阿房・商估の險貪

昭和十六年四月十三日



2727

日ソ中立條約成る

昭和十六年四月十四日



日本(松岡)
これにて
當分
安心だ、

ソ聯(スターリン)

五年間だよ、

御念には及ぶまいが、



2728

理念と現実

昭和十六年四月十五日



実現坊

「あゝ苦しいこと
じや、とても追
ひつけませぬ」

理念坊

「何をして
おしやる、
早く
ついで
来ま
さい」



2730

市之口
(昭和十五年)

昭和十六年
四月十九日

[illegible][illegible][illegible]

2731

ユーゴ降服す

昭和十六年四月十九日



独乙

ハッ裂きにも
致さずき所格別
の慈悲を以て
討首を致して
つかはす

ユーゴ

「命斗り」は

御助け下さい、

全くイギリスにたまされた

ので御座ります。



2732

松岡外相凱旋

昭和十六年四月二十二日

(お土産
澤山)



2733

希臘降服す

昭和十六年四月二十五日



テロモイール様

可恐

ゲルマニの前途

可憫

ヘレネスの末路



アタラシス

2734

戦禍西亜に及ぶとイラク

昭和十六年五月四日



イラク
フルドク
の毒
獣め
馬鹿
にする
蹴飛すぞ

英

「テクダ」と思つたが、

中々楽じゃない。

イラク自界いきが

荒いぞ。



2735

満洲の烈震

昭和十六年五月六日



震源地
綏化地方
死者二百
負傷者五百
壊倒家屋二千





東京	6778804
横浜	968092
川崎	300777
横浜	193358
川口	97115
千葉	92061
八王子	62279
浦和	59671
市川	58060
船橋	50907
平塚	43148
鎌倉	40151
鎌谷	39412
川崎	38407
藤沢	36769
合計	8858751

2736

都市の人口集中を見よ
昭和十六年五月十二日

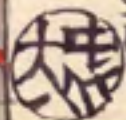


2737

左副総理ヘス

突如スモトランド
に現はる

昭和十六年五月十三日



ヘス

「これはエデンの楽土の隣、
エデンバラ、じやのう。
世界平和の爲に
神の使まつて

参つた
つじや。



2738

都築國手乳腺腫瘍を剔出す

昭和十六年五月十三日
(北帝大病院外科手術室)

古城殘墨瘍半瘡
盛衰有痕尚可尋

都築

忠太



2739

ビスマルク
三万五千噸

獨逸ビスマルク、アイスランド沖に
英艦アッドを撃ち沈す
昭和十六年五月二十五日



アッド
四萬
二千噸

2740

被矢如蝟目毗裂
比斯馬克終戰歿

昭和十六年五月二十七日



ビスマルク
「左」無念
口惜しや



274!

獨軍之タ島を占領、
英希軍敗竄す。

昭和十六年五月三十日



2742

英雄の末路

獨逸帝
ヘルムオ二
病歿す

昭和十六年六月四日



白王女
グワ
ウ
シメワイヒ
伯丈人

白王子オスカル



廢帝

「浮世に生き永
らてても意味が
ない、早く地獄
へ行つて閻魔
の應で公平の
裁判を受けま
しやう。
お前達は達者
で祖國のために
働きなさい。
あゝ、ヒットラー
に二と目逢ひ度
い。」

2743

英イラクの油田を押領す

昭和十六年六月六日



2744

日・蘭印交渉不調

昭和十六年六月十二日



日
 俺の方から八千六百万
 両を送つて居るのに
 タッタ二千四百万両
 しか出さあいとは
 不都合じゃあいか。
 東亜共栄圏の
 仲間のよしみに
 石油、ゴム、錫、
 を沢山送つて
 呉れ。

蘭印

「駄目だよ、

お前もやつても

こんち独乙に

貢ぐのだから。

東亜共栄圏

おんか真平ご免

だ。俺の方では

ちゃんと英米と

約束が出来て

居るんだ。



2745

汪精衛來朝す

昭和十六年六月十九日



汪

「近衛と軍部との

言ふことが矛盾して

ゐる、ハッキリと日本の

本音をつきとめぬは

俺もハッキリ本音は吐けぬ。

成る程、日本は

戦争に強いといふ

丈けのことらしい。



2746

獨拔討にソ聯を撃つ

昭和十六年六月二十二日



獨
悪魔め
神妙に
クダバレ

ソ
アイタ...
あのれ
やみ討
たれる
ものか

2747

スターリン線危し

昭和十六年六月二十九日



↑ 獨軍進路
↑ 獨軍豫定進路



2748

逝ける人

自四月一日
至六月三十日
昭和十六年六月三十日

元横太刀峰右門五

マシツ・シナイダー七

鹿木木五郎六

奥山亀藏六

山下正武七

陸宗興六

西義一五

山道裏一

コリジス五

堀内秀太郎六

白仁武七

獨席ウールム弟二八三

佐藤啓三

早川鉄冶七

石黒忠恵五

鈴木天山七

山脇延吉五

高橋邦太郎七

廣瀬庄太郎五

男小池正晁五

津村重舎七

石原久七

賀茂百樹五

佐藤功一五

竹本津太七

今泉嘉一郎七

元横大錦卯一郎五

子板倉勝朝六

六段山北孫三郎

塚本はま子七

三井弁藏五

2749

米軍アイスランドに進駐す

昭和十六年七月八日



米
よく見える。
独ソが悪戦
してる間に
英を助け
てやるんだ。



2750

食米がラバゴスを覗視す
(エクスドル国境問題に干渉して)
昭和十六年七月十一日



2751

近衛内閣総辞職

昭和十六年七月十七日



近衛

成る程ぬ、

大量の入れ替へだから

一度総辞職をやうふけれ

ば……そのあとは……

成る程……

2752

第三次近衛内閣成る

昭和十六年七月十八日



近衛

「政党屋を抜きに
したのでサッパリ
とした
マ、この辺で善い
ことふけねばある
まい

拓務	厚生	鐵道	遞信	司法	文部	農林	商工	内務	大藏	外務	海軍	陸軍	總理
豐田貞次郎	小泉親彦	村田省藏	近衛文磨	橋田邦彦	井野碩哉	左近司政三	田辺治通	小倉正恒	豐田貞次郎	及川古志郎	東條英機	近衛文磨	近衛文磨
五七	五八	六四	六一	六〇	五一	六三	六四	六七	五七	五九	五八	五一	五一

國務平沼騏一郎七五
國務柳川平助六三

2753

野菜難

昭和十六年七月二十二日



都会の件

「おとうさん、
野菜が無いので
困り切って
居ます、
畑の野菜を
少し送って
下さい」



「畑の青物は有り
餘つて、困り切つて
ゐるが、残念なこ
とは、お前の方は
絶対に送れない
規則だね……」



田舎の親爺

2754

米・日本在米資産を凍結す

昭和十六年七月二十六日



日

「ナンのこれしき、
痛くも痒
くもない。」

米
フード、
これでもか、
これでもか？



2755

英米崇拜の夢醒めたか。

蘭印日蘭石油協定を破る未済す
昭和十六年七月二十八日



「あゝ英米
崇拜の百
年の夢醒
めて自力本
願に大悟し
たが嗚呼
遅かりし
遅かりし」



2756

皇軍南征西貢に進駐す

昭和十六年七月三十日



緣艦壓海 萬里南征
旭旗翻翻 鯨波咆哮



2757

獨ノ惡闘

昭和十六年八月五日



魁攘魁搏
羸輪將決

2758

英米、タイを脅す

昭和十六年八月十日



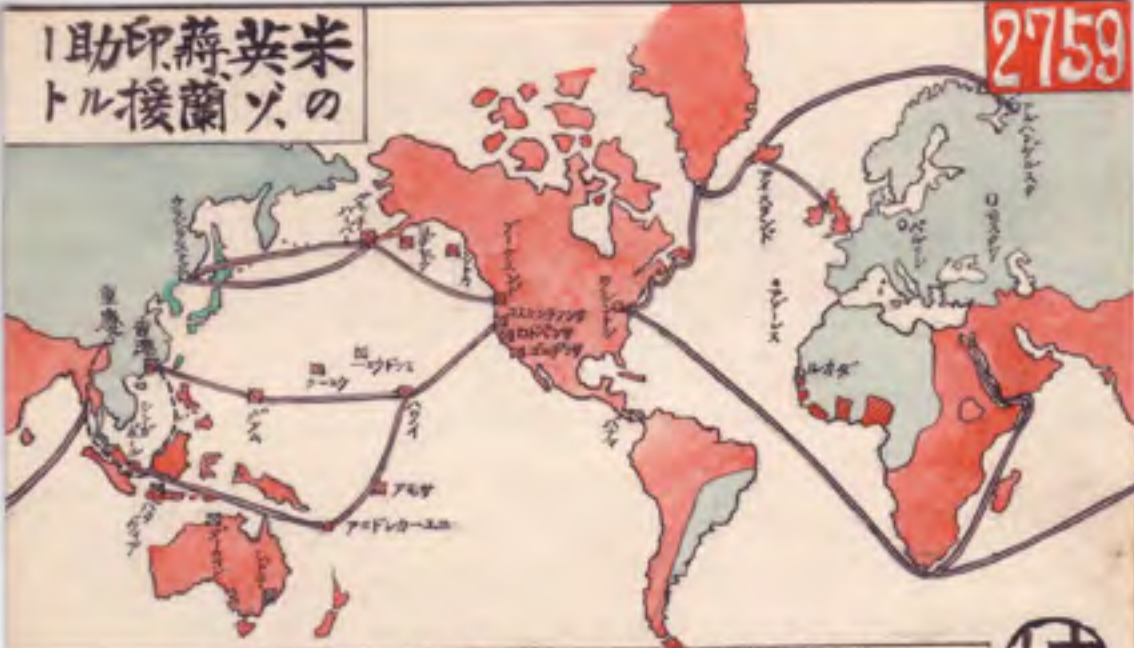
英米
「坊や、
日本に殺され
るよ、
助けてやる
から、こっち
へおいで。」

「泰
いやだい」



米英の勢力範囲
日本の援助
トル

2759



昭和十六年八月二十日
英米の勢力範囲

米英の勢力範囲
トルの援助
印仏DCBA
海軍基地



2760

平沼大臣刺客に襲はる

昭和十六年八月十二日



2761

米大統領英首相共同聲明

昭和十六年八月十五日



ルーズヴェルト

「あれで
いいだ
ろう」



第八條

我等が世界を統
轄するは諸国の間
に戦争をさせず、世
界の国民に不自由
をさせざるべし

チートチル

至極

結構で

ウございます

米大統領
英首相

2763

ソ聯の資源

昭和十六年八月二十四日



2764

ABCD S日本を包圍す

昭和十六年八月二十六日



米(A)

威しても

瞞しても

馴れあい

猛獣だから

飼ふことは

出来まい。

英(B)

牙の角もない癖に

馬鹿に強い怪

獣だ殺しても

死にそうまる

まい。

蔣(C)

鬼に角早く

叩き殺して貰は

ないと都合がわるい。

蘭印(D)

その通りだ。

ソ聯(S)

五人がうて

一匹の怪獣を

もてあますのか。



2765

英ソ共謀イランに闖入す

昭和十六年八月二十七日



ソ聯
油を残らず
出せば勘辨
して
やる。

イラン
「強盗だ
大變だ」

英
油は命
すか、命
さうこ
うか、



2766

イラン屈服す

昭和十六年八月三十日



①「ひどいや、
丸裸にするふんで、

②「サッサと
往け

③「意く
ぢのふい
餓鬼だ



近衛首相書を衆大統領に致す

昭和十六年九月三日

(八月二十六日発送)



ルーズヴェルト

「あれ丈に威嚇しても
手答へがない。矢張り蠻
族たる所以じゃ。この
滅世辞に對して黙
殺するか、一蹴するか、
真綿で頭といふ筆
法の返詞をするか、
一寸考へにやあらん哩



2768

アフガンあぶない

昭和十六年九月三日



アフガン

「でも恐ろしい
執拗じや

ソ 聯

「序でに
アフガンの
喰ふぞ



イテン



印度

阿富汗



2769

三人寄れば悪魔の智慧

昭和十六年九月七日



英

「獨乙と日本
を叩き潰
して

米

世界
を三
人分
割す
るさ

ソ聯

「欧羅巴大
陸全部と
印度以外の
アジア全部は
僕が取るよ



2770

グリーア號事件

九月四日、アイスランド
沖にて

昭和十六年九月八日



米、始めに俺のグリーアヤを

襲撃したのが独この

潜水艦だ。独を

討伐せにや

あらん

獨

「始めに俺の潜水艦を

撃つたがグリーアだ。

米の言ふことは何て

も出鱈目だ



2771

銅鐵の徴發

昭和十六年九月十三日



くろがねの
堅き心と
あかりねの
赤き誠
を国に
さげむ

重い
忠義に
軽い
いのち
だ



2772

谷川岳の収穫

昭和十六年九月十六日



山靈

今年は凶作だ

と思つてゐた

が、平作ま

てに漕ぎ

つけ

そう

だ。



2773

日米會談

重慶
煩悶す

昭和十六年九月十八日



蔣

米の旦那、

わつしを差し置

いて内しよ話とは

何事です。アの

約束を反古

みてゆしたらう

承知しませんぞ。

日

米



英

「米先生、

僕の方の不利益

にあらふい様に願

ひますすよ。」

2774

一城落ちてソ聯の秋

キエフ陥落

昭和十六年九月十九日

モスクワ

レニングラード

キエフ

オデッサ



2775

ルーズヴェルト・羅馬法王を口説く

昭和十六年九月二十日



ルーズヴェルト

「どうぞ私の方へ
お味方を願ひ
ます。お礼は
いくらでも
致します。」

法王

「いや、
そりゃふらん、
一体お前の
了簡が
間違ふとる。」



2776

獨逸日本に強要す

昭和十六年九月二十三日

獨

「ヤイ・日本！
何をボンヤリ
して居
る。早く米
をヤツケ
ろ。愚図
愚図シテル
と大變な
事に
あるぞ」

日



2777

湖南剿討

昭和十六年九月二十四日



洞庭涸兮
荆楚潰滅
衡岳崩兮
巴蜀震動



2778

逝ける人

自七月一日
至九月三十日

昭和十六年九月三十日



男

千秋季隆

久保徳太郎六

関原忠三五

井上通泰七六

岩元 禎三

男 長與又郎六

曾和嘉一郎七

長谷川時雨三

吉田秀明八

勝田孫彌七七

青木

伊原敏郎三

子 青木梅三郎六

加藤政之助八

サラテライ
ルーズヴェルト 八六

候

嵯峨公勝九

朝比奈藤太郎五

鳥居清忠三

物部長穂五

タゴール 八

鈴木寅彦六

原田十衛八

ヒルマディング 六

鈴木禎次七

2779

重慶米の保護國化す

昭和十六年十月二日



米

「金はいくらでもやる。お前の国のことあら何でも俺ままかせるがい。」



重慶

「有り難う存じます。何分宜しくお願ひ申しあげます。何より先きに日本を亡ぼして下さい。」

2780

泰・泰あらず 安南

昭和十六年十月五日



泰政府
中立だ
よ中立
だつて
ば

親日派

「英米の悪党はまだ
まされる奴がある
が信義の国日本
と結ばは安心だとい
ふことがからあいか。」

親英米派

「日本の様は貧弱国
を頼みにする馬鹿が
あろう。英米にすがれ
ば親船に乗った様
あゆんだといふことが
からあいか。」

2781

犬猫ソーセージ

昭和十六年十月八日



日本犬猫を喰ふ

英國の一悪童曰く

「第一次世界大戦の際、
独逸では鴉・鼠・何ても喰つ
たが終つて胃へけた。
神國を誇る日本が犬猫
を喰ふやうにあつては、前
途が思ひやうれる。」

2782

獨軍モスクワに迫る

昭和十六年十月十四日



ソ聯
ソヴィエト、ロシヤは
生きるか死ぬか。
オビエタ、ワシテは
逃げるにしかず。

獨
モスクワ・由すこしだ



2783

神慮

昭和十六年十月十六日



「どうぞ日本が世界
大戦の渦中に投
ぜずに済みま
す様を願ひ
申し上げます」



神霊

「そりやふらん。今度の世界大戦は
わしが計画したのじや。全世界を
みよ戦争の渦中へ追ひ込み、
一旦この廢類し切つた世界を
全滅して再び新しい平和
の世界を造るのじや。その
新世界を造る使命を
日本に與へるのじや。
ゆめ、苟安を貪るをよ。」

2784

近衛内閣総辞職

閣僚不
統一を理
由として

昭和十六年十月十六日



甲 この膝一たび屈すれば再び伸びない。
只な断の一字があるのこた

近衛
「総辞職だ。」
どうにも
仕方が
ない。

乙 又蠅の屈するは
伸びんが馬である。

忍ぶべからざるを忍ぶが
国を保

つ所以で
ある。



2785

オデッサ陷落

昭和十六年十月十七日



オデッサの蛙ども
汚泥沙に攻め立て
獨蛇に攻め立て
られ、黒海に飛び
こんで、
刮目屋の
セバストポリ
狭巢土堀
さして逃げて
行く



2786

東條内閣成る

昭和十六年十月十八日



總理 東條英機 五八

陸軍 同

内務 同

外務 東郷茂徳 六〇

拓務 同

大藏 賀屋興宣 五三

海軍 嶋田繁太郎 五九

司法 岩村通世 五九

文部 橋田邦彦 六〇

農林 井野碩哉 五一

商工 岸信介 四六

逓信 寺島健 六〇

鐵道 同

厚生 小泉親彦 五八

國務 鈴木貞一 五四

金部 裁



2787

秋風飈々東歐天

昭和十六年十月二十一日





日

2788

呵呬の呼吸

昭和十六年十月二十五日



2789

獵装束の米大統領

昭和十六年十月三十日



米

重慶

「重慶と英は
ウマク生捕つ
たから、モ一少シ
飼つて置く。」

英

独伊日、中

いづれその

内に撃ち

取て賞味

する。

ソ聯も

序に

捕獲

するさ。



2790

中亞横断鉄道計画

昭和十六年十一月五日



東京ベルリン間
十日。工費十二
億円(包頭より
バグダードまで)



2791

來栖大使米に飛ぶ

昭和十六年十一月五日



來栖

「野村頑張れ！」

破邪の神劍を賜つて

加勢に行くぞ



日

米

2792

パナマ在留邦人を驅逐す

昭和十六年十一月九日



米

「モットひどく
ぶつてやれ」

パナマ
出て
行け、行
かあいど
ぶつぞ

日
「覺へて
居ろ」





2793

包圍軍の策略

日本の糧道を絶たんとす

昭和十六年十一月十一日



2794

危機一髪

昭和十六年十一月十六日

日

中

「まだ、
双方顔を
見合せて！」

米



2795

大增税

昭和十六年十二月十八日



「いくら時節柄でも
ひどい大增税
ですふ」

「そうであい。
日本の税はまだ
少あい。
これを見
ふさい。」



全歳入に對する税額 の百分率				
米	獨	英	日	
五三	四六	四三	三六	

2796

臨時議會終了

昭和十六年十二月二十二日

宮沢某の舌禍事件
を景物として

「遠からんものハ
音にも聞け
近くは寄つて
目にも見よ
我が決心は
動かざるこ
泰山の如くである

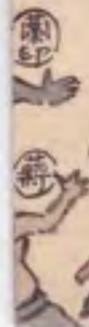


「ソ」
常套の
大見得だ



「英」
断末魔の
悲鳴だ

「米」
「私たちの最期屁だ」



2797

米の小田原評定

昭和十六年十一月二十四日



米「日本がうるさく泣きつくのでね！」

みんな遠慮

よく考えへ

を言

つて

どら

ん。



蘭印

先生、

会談は

無用

早く引導

を渡したら

いざしやう。



英

いつまでもずる／＼

に引つ張つて置く／＼

がいふ。日本がしびれ

を切らうて、いく

さを仕かりた

ら袋叩きに

してやるん

だね。



將

旦那、一蹴して

やつて下さ

い後生お

願ひ

で。

2798

最後の瞬間

昭和十六年十一月二十八日



① 不口か？
應か？

②

「否」でも
あり、
應でも
ある。
換言すれば
否でもあり、
應でもあり。
即ち否應なしだ。
まだ解らないのか？



2799

泰國の安危

小弱国の
悲哀

昭和十六年十二月五日

◎

大丈夫だ
おれが押さへてやる

泰
あ、苦い

英
米

中立ふんて
生意気か、
押し潰してやる



2800

街頭

一列行列・三時間を
費してモラメル二箇

昭和十六年十二月六日



蜿蜒沽客 一列一行
黎明踏霜 殺倒菓舗
先者多獲 後者空手
浪費數晌 世相可憂

